

全国消費実態調査 試験調査結果概要について

1. 実施概要

2019年全国消費実態調査の実施に向けた企画設計の検討に関する基礎資料を得るため、民間の調査機関の登録モニターを用いた試験調査を以下のとおり実施した。

1 調査の対象

調査対象は、民間の調査機関の登録モニターから世帯人員（二人以上／単身）、世帯区分（勤労／無職／勤・無以外）毎に、計 808 世帯に対して調査を依頼し、うち 495 世帯（61.3%）からすべての調査票を回収

2 調査票及び調査時期

「世帯票」、「耐久財調査票」、「年収等調査票」については、2018年5月末時点の状況を、「家計簿」については、2018年5月25日～31日の1週間及び6月24日～30日の1週間で調査

3 調査の方法

- ・世帯をグループ1とグループ2（以下、「G1」・「G2」という。）の2グループに分け、調査票の記入後にアンケートを実施
- ・家計簿A及び家計簿Bについて、それぞれ1週間ずつ、2018年5月25日～31日及び6月24日～30日の2週間にわたって調査
 - 2018年5月25日～31日：G1は家計簿A、G2は家計簿Bに記入
 - 2018年6月24日～30日：G1は家計簿B、G2は家計簿Aに記入
- ・調査票とアンケートの配布・回収は郵送による
- ・家計簿Bの調査期間中に発生した領収書やレシートを回収

4 調査結果

以下の内容のうち、①家計簿及び②年収等調査票の結果の概要については、第7回分科会(8/8)で報告した。第8回分科会(9/3)においては、③～⑤の結果の概要を報告する。

- ①家計簿（食料の分類状況、記入時間の比較、各調査項目の記入方法等）
- ②年収等調査票（「その他の年間収入」の自由記入欄の記入状況）
- ③世帯票（学歴等の各調査項目の抵抗感）
- ④耐久財調査票（記入時間の比較、過去1年間に購入した耐久財の概算購入総額の記入状況）
- ⑤年収等調査票（年間収入及び税金・社会保険料額の記入状況）

2. 結果の概要③（世帯票について）

(1) 学歴等の各調査項目の忌避感

① 確認内容

国の統計調査で以下の調査項目を調査する場合に、それぞれを回答する際の抵抗感の度合い（抵抗がない、あまりない、少しある、ある）をアンケートで確認して、学歴の忌避感を相対的に評価した。

- ・持ち家か賃貸住宅かの別
- ・勤め先の名称
- ・学歴の別（記入者本人の分・記入者の家族の分）
- ・年収（記入者本人の分・記入者の家族の分）
- ・貯蓄の金額
- ・借入金残高

② 確認結果

学歴等の各調査項目の抵抗感について、アンケートの回答を集計した結果、提出先（提出方法）別の抵抗感を見ると、「インターネットで回答すること」が最も抵抗感が少なく、「市区町村役場に提出すること」、「訪問した調査員に見せること」の順にその抵抗感が強まる傾向が見られた（図1-1～図1-3）。

また、調査項目別の抵抗感では、下図のとおり、貯蓄の金額、年収及び借入金残高では抵抗感があるを選んだ世帯が多く見られた。一方で、学歴の別について、抵抗感があるを選択した世帯は勤め先の名称と比べると少ない結果となった。

- ・比較的抵抗感がない項目
→学歴の別（記入者本人の分・記入者の家族の分）、持ち家か賃貸住宅の別
- ・比較的抵抗感がある項目
→貯蓄の金額、年収（記入者本人の分・記入者の家族の分）

図 1-1 訪問した調査員に見せることに対する抵抗感

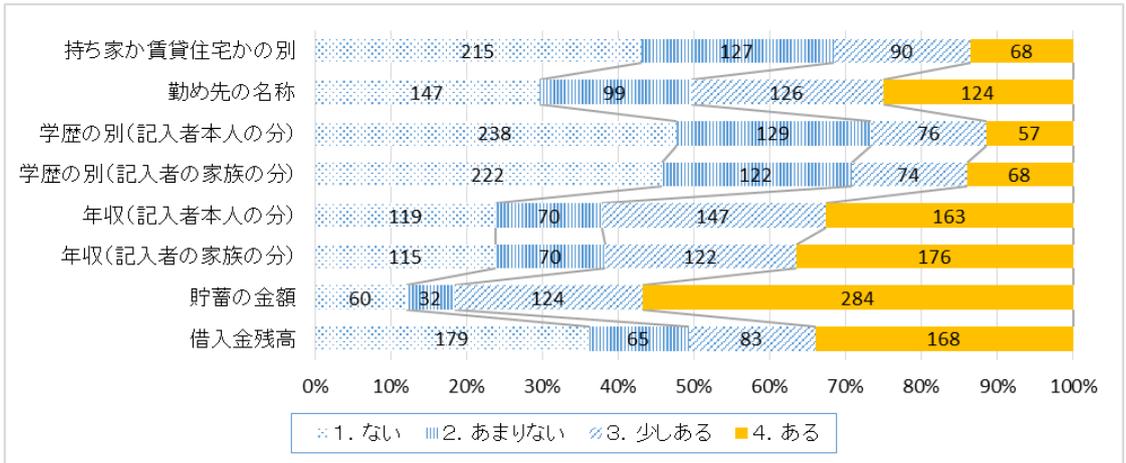


図 1-2 市区町村役場に提出することに対する抵抗感

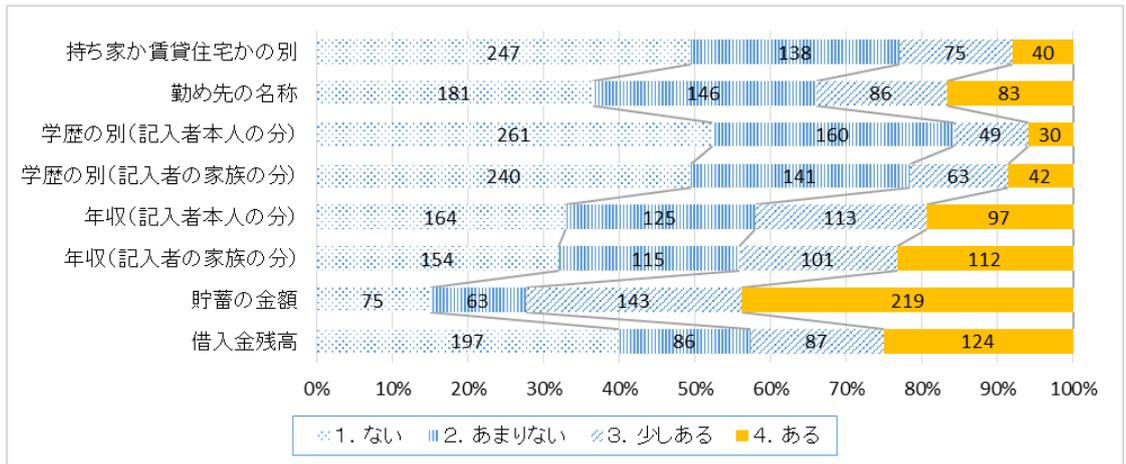
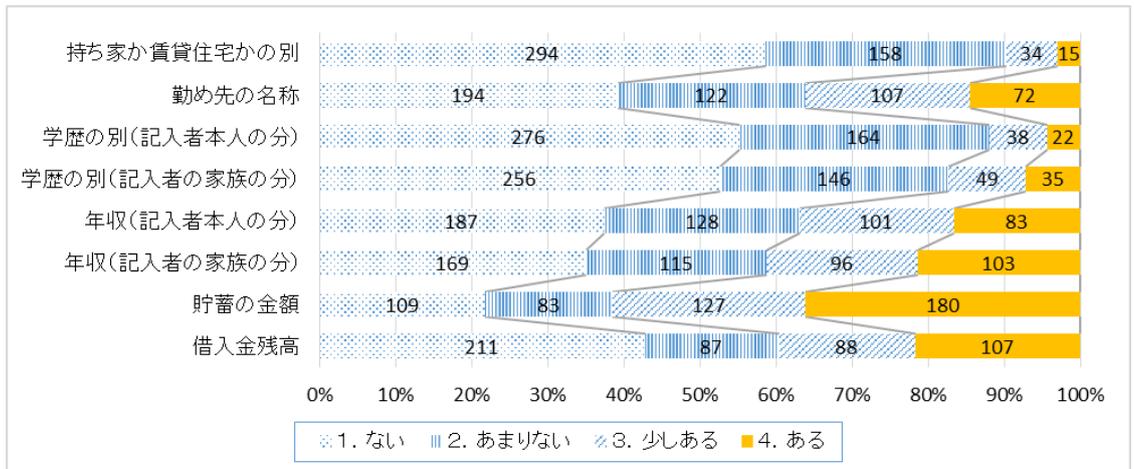


図 1-3 インターネットで回答することに対する抵抗感



3. 結果の概要④（耐久財調査票について）【参考結果】

(1) 耐久財調査票A/Bの記入に要した時間

① 確認内容

耐久財調査票の調査内容による記入負担の違いを確認するため、次の2種類の耐久財調査票を用いて、1世帯あたりの記入に要する時間を比較した。

- ・耐久財調査票A：過去1年間に購入した耐久財の概算購入総額（以下、「概算購入総額」という。）欄を設けていない調査票（前回調査と同じ様式）
- ・耐久財調査票B：概算購入総額欄を設けた調査票

② 確認結果

耐久財調査票Aと耐久財調査票Bの記入に要した時間（1世帯平均）の結果は下表のとおり（表1）。耐久財調査票Aの記入に要した時間は7.6分で、耐久財調査票Bは9.3分で、物理的に記入量の多い耐久財調査票Bのほうが2分弱多く要する傾向が見られた。

表1 耐久財調査票Aと耐久財調査票Bの記入に要した時間の比較

		①集計世帯数	②1世帯あたりの記入に要した時間 (合計)(分)	1世帯あたりの記入に要した時間 (②/①)(分)
耐久財調査票A	合計/平均	253	1918	7.6
	1.二人以上世帯	167	1391	8.3
	1.1 勤労	100	802	8.0
	2.勤労外	36	310	8.6
	3.無職	31	279	9.0
	2.単身世帯	86	527	6.1
	1.1 勤労	48	274	5.7
	2.勤労外	17	75	4.4
	3.無職	21	178	8.5
	耐久財調査票B	合計/平均	240	2242
1.二人以上世帯		163	1670	10.2
1.1 勤労		109	1016	9.3
2.勤労外		30	330	11.0
3.無職		24	324	13.5
2.単身世帯		77	572	7.4
1.1 勤労		40	291	7.3
2.勤労外		19	148	7.8
3.無職		18	133	7.4

(2) アンケート

① 確認内容

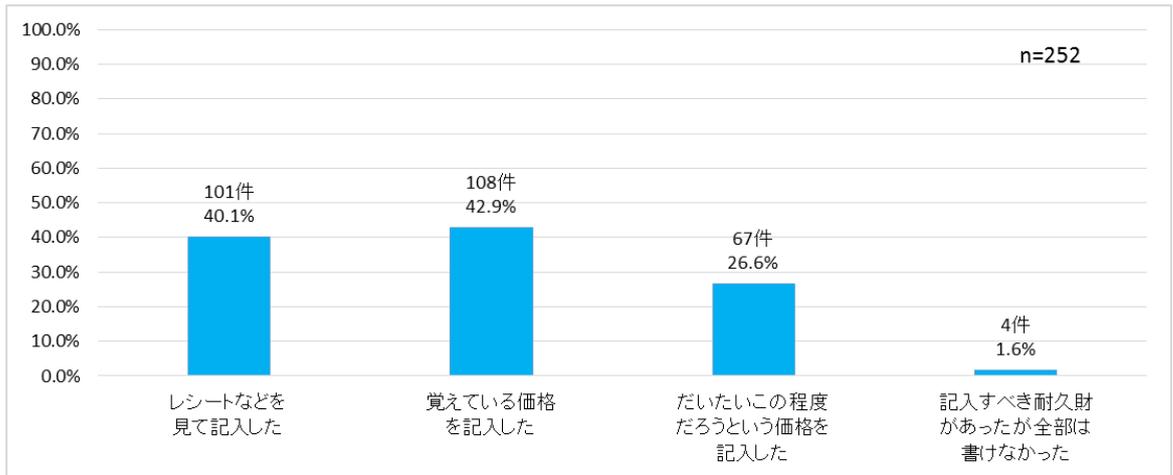
耐久財調査票Bにおいて、過去1年間に購入した耐久財の概算購入総額という。）を記入する上で、何を参考としていたかをアンケートで確認した。

② 確認結果

過去1年間に耐久財を購入した世帯に対してアンケートを行い、概算購入総額を記入する際に参考とした情報を確認した結果、「1. レシートなどをみて記入した」は101件（40.1%）であった（図2）。

また、「2. 覚えている価格を記入した」は108件（42.9%）、「3. だいたいこの程度だろうという価格を記入した」は67件（26.6%）という結果であった。これ以外にわずかではあるが「記入すべき耐久財があったが全部は書けなかった」は4件（1.6%）あった。

図2 過去1年間に購入した耐久財の概算購入総額の記入方法（複数回答可）



4. 結果の概要⑤（年収等調査票について）

(1) アンケート

① 確認内容

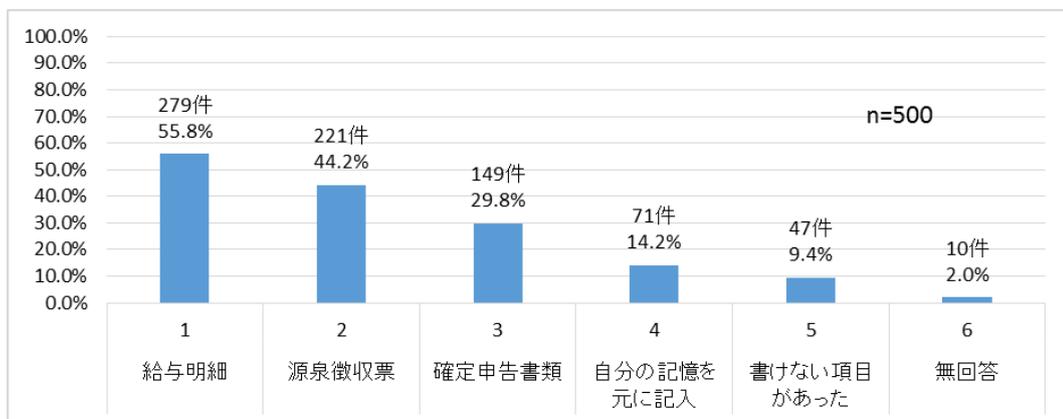
アンケートでは、年収等調査票において年間の非消費支出（税金・社会保険料等）を調査項目として新たに追加した際に、世帯が記入できるかどうかを確認した。

② 確認結果

年間収入や税金・社会保険料額を記入する際に何を参考としていたか確認した結果、「1. 給与明細」が279件（55.8%）で最も多かった。次いで「2. 源泉徴収票」221件（44.2%）、「3. 確定申告書類」149件（29.8%）が続いた。

一方で、「自分の記憶を元に記入」71件（14.2%）、「書けない項目があった」は47件（9.4%）あり、資料等に基づく確実な記入が行えていない世帯は、各々約1割あった（図3）。

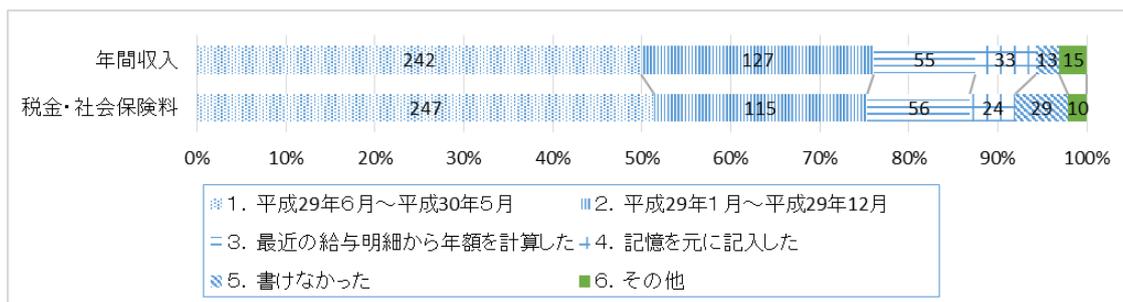
図3 年間収入や税金・社会保険料額は何を参考にして記入していたか（複数回答可）



次に、年間収入及び税金・社会保険料額の記入対象とした期間を確認した結果¹、いずれの調査項目も、約5割程度の世帯は「1. 平成29年6月～平成30年5月」の金額を記入しており、残り5割の世帯は、「1. 平成29年6月～平成30年5月」以外の期間を記入、または給与明細から計算、あるいは自分の記憶を元に記入という結果であった（図4-1）。

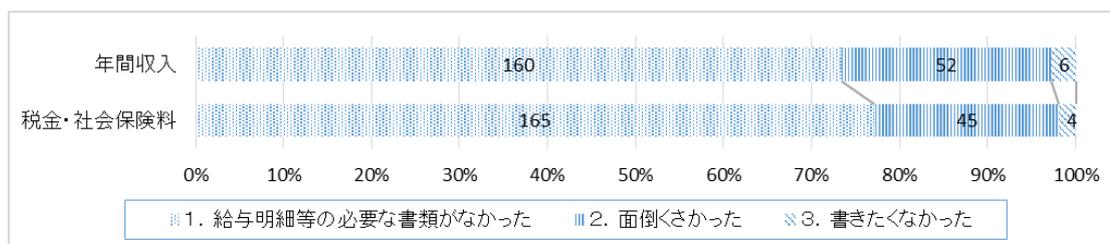
また、「5. 書けなかった」を選択した世帯数が、年間収入が13世帯であったのに対し、税金・社会保険料が29世帯と約2倍となっている。

図4-1 実際にはどの期間の金額を記入していたか。



なお、年間収入及び税金・社会保険料額について、「1. 平成29年6月～平成30年5月」以外の期間を記入、または給与明細から計算、あるいは自分の記憶を元に記入した世帯の理由をみると、「1. 給与明細等の必要な資料がなかった」を選んだのがどちらも7割以上という結果であった（図4-2）。

図4-2 「①」で「2～6」の回答をした理由はなにか。



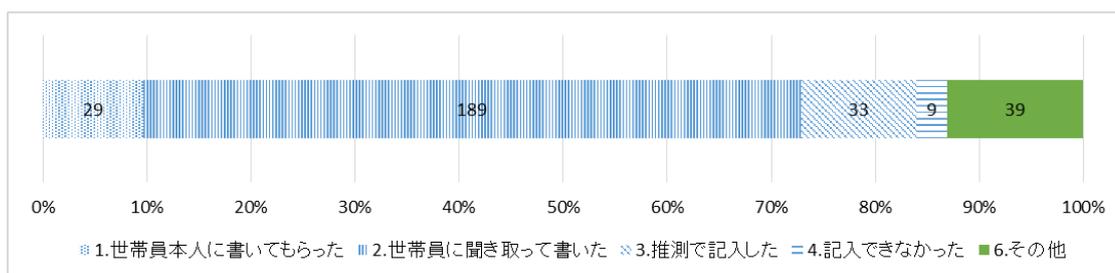
続いて、年収等調査票について、記入者本人以外の世帯員の収入をどのように記入していたかを確認した結果、「1. 記入者本人に書いてもらった」及び「2. 世帯員に聞き取って書いた」が合わせて約7割であった^{*}。一方で、「3. 推測で記入した」や「4. 記入できなかった」を選択した世帯は合わせて約1割程度であった（図5）。

また、「6. その他」を選択した世帯では、給与明細や確定申告書等を見て記入したという回答が多くあった。

^{*}「5. 単身世帯/他に収入のある世帯員がいない」を選択した世帯はあらかじめ母数から除外している

¹年間収入や税金・社会保険料の金額は過去1年間（平成29年6月～平成30年5月）のものを記入することとしていた

図5 記入者本人以外の収入はどのように記入していたか。



(2) 記入に要した時間の比較

① 確認内容

年収等調査票について、次のオモテ面及びウラ面の調査内容による記入負担の違いを比較するため、年収等調査票のオモテ面及びウラ面に「記入に要する時間」欄を設け、それぞれの記入時間を確認した。

オモテ面：年間収入について（勤め先からの年間収入、農林漁業収入、内職などの年間収入等）、仕送り金について 計 15 項目

ウラ面：税金・社会保険料等について（所得税、住民税、年金保険料等） 計 12 項目

② 確認結果

1世帯当たりの記入に要した時間の平均は、総計で比較するとオモテ面は10.5分、ウラ面は15.3分となっており、ウラ面のほうが約1.5倍多くの時間を要するという結果であった（表2）。また、世帯属性別（二人以上／単身、勤労／勤労外／無職）の結果をみても、おおむねウラ面のほうが記入に要した時間は多い傾向が見られた。

表2 年収等調査票のオモテ面とウラ面の記入に要した時間の比較

	世帯数 (両面記入あり 世帯抽出)	記入に要した時間(分) (合計)		1世帯あたりの記入 に要した時間(分) (平均)		
		オモテ面	ウラ面	オモテ面	ウラ面	
合計	1.二人以上世帯	277	3059	4540	11.0	16.4
	1.勤労	175	1657	2963	9.5	16.9
	2.勤労外	55	508	794	9.2	14.4
	3.無職	47	894	783	19.0	16.7
	2.単身世帯	139	1292	1826	9.3	13.1
	1.勤労	75	583	992	7.8	13.2
	2.勤労外	32	380	489	11.9	15.3
	3.無職	32	329	345	10.3	10.8
	総計	416	4351	6366	10.5	15.3